

令和2年8月 定例記者会見（報告）

1 日 時 令和2年8月26日（水）午後13時～午後13時50分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>朝日新聞、山形新聞、米澤新聞、読売新聞、河北新報、置賜日報

<市> 市長、秘書広報課長、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) コロナの影響で遅れていた小中学校の授業は、夏休みを使って調整することができましたか。今後も児童・生徒へのフォローなど何か検討していますか。
- (2) 新型コロナ対策として盛りこんでいた小中学校のトレッキング、米沢びしゃもんプロジェクトへの支援・連携について、それぞれどのような進捗状況ですか。今後、新たに打ち出す施策もあれば合わせて説明していただきたいです。
- (3) その他

5 内 容

○秘書広報課長

これより令和2年度8月の定例記者会見を開催させていただきます。初めに、市長から発言がございます。

○市長

はい。それでは質問項目についてお答えをさせていただきます。よろしくおねがいたします。今回の質問項目は大きく2つでありました。その1点目が「コロナの影響で遅れていた小中学校の授業は、夏休みを使って調整することができましたか。今後も児童・生徒へのフォローなど何か検討していますか。」という質問でございます。まずこのことについてお答えをさせていただきたいと思えます。基本的には教育委員会の所管事項ではありますが、私から答弁をさせていただきます。調整をできたかどうかについてであります。夏季休業の短縮だけでなく、やはり冬季の休業も短縮、あるいは1日の授業時間数の増加など、各種それぞれの小中学校が工夫をしながら教育課程を再建することにより、現在のところは、授業時数を確保し、調整の見通しが立っているということでございます。

次に、児童・生徒へのフォローについての回答であります。今日まで、感染リスクの高まる、人との接触を伴う教科、主として体育とか音楽、家庭科などの学習につい

ては、学習内容によって実施を見送ってきました。感染リスクの低い教科の学習を優先して実施するなど、安全面を最優先にした対策をとってきております。感染対策の長期化が予想される現在、児童・生徒の学びを止めないためにも、実施の可否について慎重に検討し、国や県の通知やマニュアル等に従い、国や県が示している感染レベルによって実施可能とされる学習内容については、十分な感染防止対策を徹底したうえで実施していくという方向で考えております。児童・生徒の学びを保証するために、再度の臨時休業は出来る限り避けていきたいと考えております。新しい生活様式に沿った感染予防対策をこれまで以上に徹底しながら、学校での感染を防ぎ、児童・生徒の学びが保証されるように努めてまいらなければならないと、このように考えております。

それでも対策を講じてもお、臨時休業の措置を講じなければならない場合も想定される訳でありますので、その際は、感染状況にもよりますが、保健所からの助言、指導を受け、第1波の際に行った全市一斉の休業措置ではなく、当該学校や地区による臨時休業の措置を検討するなど、臨機応変に適切な対応を進めていきたいと、このように考えているところであります。そこで臨時休業の措置を取らざるを得ない当該学校につきましては、保護者や児童・生徒の学習面、精神面での不安を解消するために、まず定期的な連絡、必要に応じては、教員による学習支援や相談、また、スクールカウンセラーへの相談を行い、学校が再開した際に児童生徒が安心して学校での生活を送ることができるような様々なフォローを行ってまいりたいと、このように考えております。

何よりも、感染者の人権を守る観点から、感染者に対する誹謗中傷やいじめなどが絶対に無いように児童・生徒に指導したり保護者に啓発したりして進めてまいりたいと考えております。1番目については以上であります。

2番目の「新型コロナ対策として盛りこんでいた小中学校のトレッキング、米沢びしゃもんプロジェクトへの支援・連携について、それぞれどのような進捗状況ですか。今後、新たに打ち出す施策もあれば合わせて説明していただきたいです。」ということでありました。まず小中学生のリフレッシュトレッキング事業であります。この目的は皆様ご承知のとおり市内の小中学生を対象として、市内の貸し切りバス事業者、旅行者等の観光関連業者と連携し、天元台高原でのトレッキング体験の機会を創出するものであります。この事業期間としましては、令和2年4月22日から、令和2年10月31日までとなっております。ただし、この期間に実施が困難な場合には、スノー期の令和2年12月4日から令和3年3月12日までの利用も可能としているところであります。

現在の進捗状況であります。事業全体の参加人数が、合計で25校、249学級、5,926名、これは全小中学生を対象としております。実際に現在までの事業開始日からの実績であります。4月22日から8月22日までで実施した小中高につきましては27校、28学級、475名の参加がありました。今後の実施予定であります。22校、221学級、5451名が参加を予定しているという状況であります。

今後の実施状況を見ながら、スノー期に入る学校もあるのかなのか、その辺も確認しながら、対応をしていきたいと考えております。

次にびしゃもんプロジェクトであります。この事業につきましては、主催は米沢商工会議所青年部と米沢青年会議所が中心となって、感染防止対策に努めてまいりました。このことにつきましては、本市としましても先のチラシでも内容について市民の皆様へ報告をさせていただいてきたところであり、この事業につきましては、今後、主催者を中心にポスター、コースター、ステッカーを作るということで、後日記者クラブの皆様にはそのご案内が行くと思っております。そういったものも今準備をしているところであります。そういった部分について、今現在、米沢市の消費喚起事業費補助金を活用して、支援をしているところであります。

何よりも、事業所もそうありますが、利用される市民の皆様にも、新しい生活様式、あるいは感染防止対策をしっかりとやっていこうという啓発活動が中心となりますので、今後とも、色々な面で市民の啓発活動に役立てていきたいと、この主催団体の方にも支援をしてまいりたいと考えております。今後、今申し上げたほかに、市内小中学校にびしゃもんプロジェクト学校向けのポスターを配布する、あるいは全小学生、大体4,000名を対象に、びしゃもんプロジェクトのシールの配布を計画して、これも学校教育課と主催団体の方で検討をしているという状況であります。

あと、3番目の「今後、新たに打ち出す施策もあれば合わせて説明していただきたいです」につきましては、前段の9月議案の説明の際、総務部長より説明がありましたので、私からは割愛させていただきます。

私からは以上です。

○秘書広報課長

市長からの発言は以上になります。これ以降の進行につきましては幹事社の方にお渡ししますので、よろしく申し上げます。

○幹事社

よろしくお願いいたします。まず最初に伺いたいのは夏休みの部分で、臨時休校のあり方について、臨機応変にとおっしゃっていましたが、そうすると4月にやっていたような基準から一部変えることになるという認識で間違いはないですか。

○市長

当然そうなると思っております。あれは国から、全校一斉休校という休業要請があって、それは県内でもそうですし、米沢もそれに呼応しながら対応しました。しかしながら今後感染者が出た場合には、そこを検討しながらということですが、一斉休校ということではなくて、その学校なり地域なりの状況を判断しながら、臨機応変に対応していくということになります。

○幹事社

そのあたりの基準というのはある程度決まっていますか。

○市長

それは今ここでどうこうということは出来ません。

○幹事社

トレッキングのことについてですが、先ほどおっしゃっていた学校数のところで、25校の対象に対して実施が7校で今後実施が22校ということだったのですが、これは学校ごとに分けて実施している学校があるということですか。

○市長

そのとおりです。

○幹事社

幹事社からは以上です。ほかにあればお願いします。

○記者

びしゃもんプロジェクトなのですが、東京都の方では同じような趣旨というか似たような趣旨の形で、自主的に感染防止ステッカーを貼っているところでクラスターが発生して色々批判が出たりということもありました。びしゃもんプロジェクトも同じように何か検査してとかではなくて自主的にということではあるのですが、何か改めて市として情報発信とか、てこ入れではないですが何か協力していこうといったお考えはありますか。

○市長

若い人たちが、JC（米沢青年会議所）さんも YEG（米沢商工会議所青年部）さんも一生懸命取り組んでいただいております。東京都で問題になったのは、しっかりと感染防止対策をしているところから感染者が出た、そしてそこを配置とか掘り下げてみると、実際にどれだけの効力があるのかというところが話題になっていたようでした。米沢市のものもそういった東京都のように完全に「こうだ」というものではなく、先ほど申し上げましたように、「お互いに感染防止にしっかりと取り組んでいこう」という啓発活動が中心になるというように私は思っております。そういったことに呼応して、ただ米沢の場合は、3段階になっております。「何項目クリアすれば一つ星」とか、全部で18項目ほどあったと思います。そういったものをひとつの感染防止対策としての、事業者側から言うと「しっかりと取り組みをしていますよ」と、利用者側からしてもそのことによってどのように利用されるかについて、そして利用する側もしっかりと感染防止やっっていこうという趣旨が中心でありますので、今後、先ほど言いましたように色々小学生向けに対して、子供たちがしっかりとこういったことを認識し、取り組むことによって、親への啓発もできるのではないかという、主催している団体側からそういったこともあって、是非学校教育課、教育委員会と連携しながらステッカーの配布などもさせていただきたいということもありましたので、そういったことも含めて色々な面で、教育体制について検討しているという状況であります。

○記者

びしゃもん絡んで、市長はずっと胸にびしゃもんバッジ付けておられますが、出来たときから私もずっと「それいいなあ」と思っているのですが、先ほど小学生に配るのはシールとかステッカーとあって、そのバッジについてはたぶん言及なかったように思うのですが、何かバッジについて市長として活用方法などお考えはありますか。

○市長

やはり米沢市もみんなで一緒にやっという事で、担当のほうから「市長にバッジを付けたいので何かないか」ということでいただいたバッジでした。こういったものをつけることによって1つの啓発活動というものになっていくということであれば、やはり多くの人に着けていただいて、それが啓発の一環ということになっていくことも私は大変重要なことだと思っておりますので、今後どのようにするかも含めて、市からの支援も必要になるかもしれませんが、多くの方に着けてもらえるような対応をしていきたいと思っておりますので、もうちょっと時間をいただければと。多くの人に着けてもらいたいと思っております。

○記者

着けてもらうこともそうですし、知ってもらうということもあると思うので、例えば可能かどうかわかりませんが、市役所の壁面を覆っている白いところのどこかに大きなびしゃもんを描いてもらって撮影スポットにしてみようとか、今は米沢品質の表示がありますが、被ってもびしゃもんもブランド力だと思えばいいと思うので、何かもっと市として発信できるかななどもご検討いただければと思います。

○市長

わかりました。大きなポスターなどもできると思っておりますので、市役所にも導入したいと思っております。

○記者

他市町を見てもみますと、入り口のゲートのところの検温の機械が素晴らしいなど、この間川西町のフレンドリープラザに行ったら、大きなパネルに温度とか色々な情報が表示される最新型のものをつけていて、みんな「なんだろうな」と使っていたのですが、米沢の場合、機械は設置されているのですが、何度なのか分からない、青と赤しか表示されないものなのですが、その辺もう少し進んだものを設置したら利用率も上がるのかなと思うのですが、いかがですか。

○市長

機械そのものにそんなに問題はないと思うのですが、ただ目につかなければ、興味を持っていただかないと検温ということにもならないと思っておりますので、「なんだろうな」と思っただいて、検温してもらおうような、そういったものにしていく必要はあると思っております。

○記者

実際に何度ということが出れば安心する部分もありますし、「やってみようかな」という動機づけにもなると思っております。

○市長

そうですね。

○幹事社

質問事項以外のところで何かある方いらっしゃいますか。

○記者

先月も伺ったことで、一応改めて伺っておこうと思うのですが、上杉まつりの代替というのは何か決まりましたか。

○市長

代替事業というまでにはなかなか、密になるイベントも5000名以上のものはまだ延期するという国の方針も出てきて、何をとっても密の状況をどのようにするかということもあります。ただ、個々の小さな単位で今までお祭りに関わってきた色々な団体があるわけですね。民謡一家さんもありますし、愛の武将隊もありますし、そういったものは、やはり期間中にどこでどうするかということまでいかななくても、そのようなことでやっていくということも今考えているようです。あともう1点は、これは文化面になりますが、米沢市のIJU大使をお願いしている福田直樹さんからのご提案をいただきまして、やはり大勢の市民の皆さんに今元気を出してもらいたいと、コロナということで気持ちがすさんでいたり萎縮したりしているので、「私にできる音楽で市民の皆さんに元気を与えられれば」というご提案をいただいて、これは9月26日に伝国の杜で、もうすでにご案内なっていると思います。あと今後どうするかですが、やはりお祭り期間中に、これはどこまでどうするか、まだはっきりと「やる」という方向ではないのですが、結構今各地で抜き打ち的な花火が上がっているようです。そういったことなども、若い人たち中心に、1日、1回だけということではなくて、どのような方法でされるかということも含めて、今検討をしています。どうなるかは、今はっきり「こうなりますよ」というご提示は出来ませんが、今検討を進めているところでありまして。

○記者

コロナが出てから、市長はずっと「市民が元気になれるような何かをやらない」ということをおっしゃっていたと思うのですが、「おうちで牛肉まつり」も好評だと伺いましたが、どういう形になるか分からないが、単発ではなくて何度かやっていきたいというようなことですか。

○市長

そうですね。「牛肉まつり」も、実はJAさんと連携しながら大々的にやろうよと、河川がいいのか中央がいいのかも含めて、実は農協の人とも話していたのですが、やろうやろうということだったのですが、どう考えても密というところから出来ないわけですね。結局は「おうちですき焼きパーティーを」という格好になってしまいました。そういったことも1つのイベントの代替としてなるのかならないのか分からないのですが、そういったことも考えて、今後やはり単発的なものがある程度複数回やっていくということも含めて、どこまで密にならないでできるのかという、そこが1番の課題だと思いますので、色々小さなものになるかもしれませんが、イベントとなるのかならないかは分かりませんが、少しでも市民の皆さんの元気が出るような取り組みというものも必要でないかなと思っております。

○秘書広報課長

それではこれもちまして、令和2年8月の定例記者会見を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

○市長

どうもお世話様でした。ありがとうございました。